

「プレスネット」(vol. 880)
平成 29 年 10 月 26 日掲載



安藤 忠男
(土壌肥科学・環境科学)

もみ殻で地球温暖化の進行を少しでも抑えようと黒瀬町の稲作農家の方々が頑張っている。もみ殻でどのように脱温暖化を進めようとしているのだろうか？そしてその効果は？

昨年11月、地球温暖化に関するパリ協定が発効した。産業革命以降の地球の平均気温の上昇を2度以下に抑えるため、今世紀末までに世界中の二酸化炭素(CO₂)排出量を実質ゼロにする計画だ。日本政府は2030年度までにCO₂排出量を2013年度比26%減らす



もみ殻で脱温暖化

東広島の水田で4000トンのCO₂削減可能



もみ殻くん炭を作る装置

ことを自己申告し、国民に対しては今後13年間で家庭からのCO₂排出量を約4割減らすよう求めている。

もし私たちが脱温暖化に失敗すれば、私たちの子孫は深刻な被害を受けるだろう。戦後を生きてきた私たちが地球温暖化を招き、その上有効な防止対策を怠ったとすれば、未来の世代は私達を決して許さないに違いない。これは私たちの踏ん張りどころだ。

東広島市の地球温暖化対策推進協議会の一「エコIN Nくらせ」がもみ殻で脱温暖化を進めている。その方法

はもみ殻を炭化して土に混ぜるだけである。できたもみ殻くん炭は土の中で細かく砕けても消失することはない。だからイネが光合成で取りこんだCO₂を半永久的に土の中に封じ込められる。

エコIN Nくらせでは平成22～28年に44人が27トンのもみ殻くん炭を製造し、約33トンのCO₂を削減したそうだ。水田1畝ならガソリン500リットルの、東広島市の水田なら4000トンのCO₂を削減できるから温暖化対策として有効だ。

もみ殻くん炭は土を軟らかくし、保水力を高め、土の微生物のすみかとなる国認定の優秀な土壌改良材だ。ポットやプランターにも利用できる。もみ殻くん炭の入手方法や作り方はエコIN Nくらせ事務局の小原さんまでお問い合わせいただきたい。電話090(2800)0687

広島大学マスターズは、広島大学を退職した教職員で組織しています。市民を対象にした講座も行っています。
【問い合わせ】
kazuwp@hiroshima-u.ac.jp (渡部)